

## 「5G革命」に向けて

### 栄枯盛衰

グローバルビジネスに於いて英語は必須言語です。17世紀から始まる大英帝国の時代、20世紀北米の時代へと300年続く英語圏国家の興隆によるものです。覇権、文化、経済軸の移動は、古代ギリシア・ローマ時代、スペイン・ポルトガルの大航海の時代等繰り返される歴史でもあります。国家でも、市場、或いは会社でも、必ず栄枯盛衰があるのは、常に環境が変化し続け、自らの構造は惰性と硬直化によりイノベーション、変化を起こせず、環境に適應できず衰退するからです。

過去、日本は組立産業中心に外貨を稼ぎ、1980年代後半、20年後にはGDPで北米を超えるとされる勢いで成長していましたが、金融の緩和状態に対して引き締め急ブレーキが踏まれた等の結果、経済が低迷、失われた30年間を歩んでいます。

俯瞰してみますと、日本のバブル崩壊以降も、市場含めルール・メイキングできるところが勝ってきた感があります。バブル崩壊前の日本企業は、国際ランキングでトップ10に入るところが7割と断トツでしたが、2019年現在はゼロです。但し、その評価基準は、ある意味で時価総額最大化に於いて北米式にメイキングされたルールの下、ある種の「ラットレース」を繰り返している結果でもあります。北米は、製造業が衰退した後に、金融、IT、と自ら経済の軸をシフトさせイノベーションし、ルール・メイキングしてきました。イラクの政策失敗と住宅バブルの崩壊後、勢いは削がれ、中国に10年後越されると言われていますが。一方、独自のルールで興隆するのが中国であり、不動産バブルが崩壊すると言われつつ、経済を無事に軟着陸させるかも知れません。その株式市場をルール・メイキングするのが中国共産党であり、12億人プラス $\alpha$ の市場ルールを自らがコントロールできるというメリットがある様です。

2020年からの環境を俯瞰してみると、時価総額最大化という株式資本ルールの下、各国がしのぎを削りグローバル経済が暴走する結果、地球に暮らす生態系の悲鳴の様なものが加速度的増える様になります。

100年に一度の変化が毎年起きる様な中、ある種のルール、価値観の変更が余儀なくされ、地球全体を包む奥底では、人々が100年の眠りを覚ます様な地殻変動が起きます。

世界規模で俯瞰してみますと、「国家」と「軍事」、「経済」という共有コンセプトと、「人間」という4層のレイヤー間に揺らぎの様なものを感じます。

インターネットにより世界規模で「メッセージ」を共有できるようになった現在、新たな時代のルールは、人間、民がつくり、グローバルに共有されるのかも知れません。

環境、市場の構造に劇的な変化が求められる2020年から、ライツマネジメントのビジネスに求められるものは、正に時代に求められるこのメッセージの再生産です。地球、世界で調和する「正し

いメッセージ」というコンテンツをクリエイター達が、プロフェッショナルとしてマネタイズし再生産しつつ、成長していける様な構造、市場を再構築する事です。

3Gの時代に崩壊した音楽のマネタイズの既存構造、5Gの時代に崩壊する映像のマネタイズの既存構造に対して、新たなアプローチが求められています。

変わるもの変わらないもの

ICAのビジネスに翻って見ますと、創業より或いはそれ以前から音楽というメッセージを軸に、そのライツマネジメントによるマネタイズの構造を見つめてきました。

音楽も、映像も同様に、クリエイターのメッセージを届ける、新たなディストリビューション、そのプロモーションの構造の再構築が必要です。

ICAは、前身であるMISSIONHILL RECORDS時代に、アーティストのインディペンデント化をテーマに、CD/DVDパッケージの流通と宣伝の環境づくりを目指しました。ICAの創業から10年間は、それをインターネット上での提供を目指しました。

今、クリエイターの表現は、実演、肖像、記録メディア含め、そのコンテンツはフィジカル、デジタル、或いはその融合含め、様々のソースに対して訴求し流通しマネタイズされなければなりません。

ICAが関わり目指すビジネスは、音楽であれ映像であれ、メッセージというコンテンツ、そのライツマネジメントという役割は変化しません。そこには、感動というエネルギーが永続的に人々の間に生み出す変革と拡大再生産があります。

後2か月足らずで2020年となりますが、革命的な変化が通信インフラの5Gシフト、そしてコンテンツではアスリートというコンテンツを始め生み出されていきます。

ICAのビジネスは、現在進めているフィジカル・コンテンツの宣伝と流通、フィジカル・コンテンツを介在したデジタル・コンテンツの流通、全国のシネマコンプレックス(4DX)という(体験を提供する「出口」づくりに成功した)ある種「記録メディアの最後の砦」含め、ここでビジネスの再構築を実現します。

To be continued.